延遼館の時代

明治ニッポンおもてなし事始め

ごあいさつ

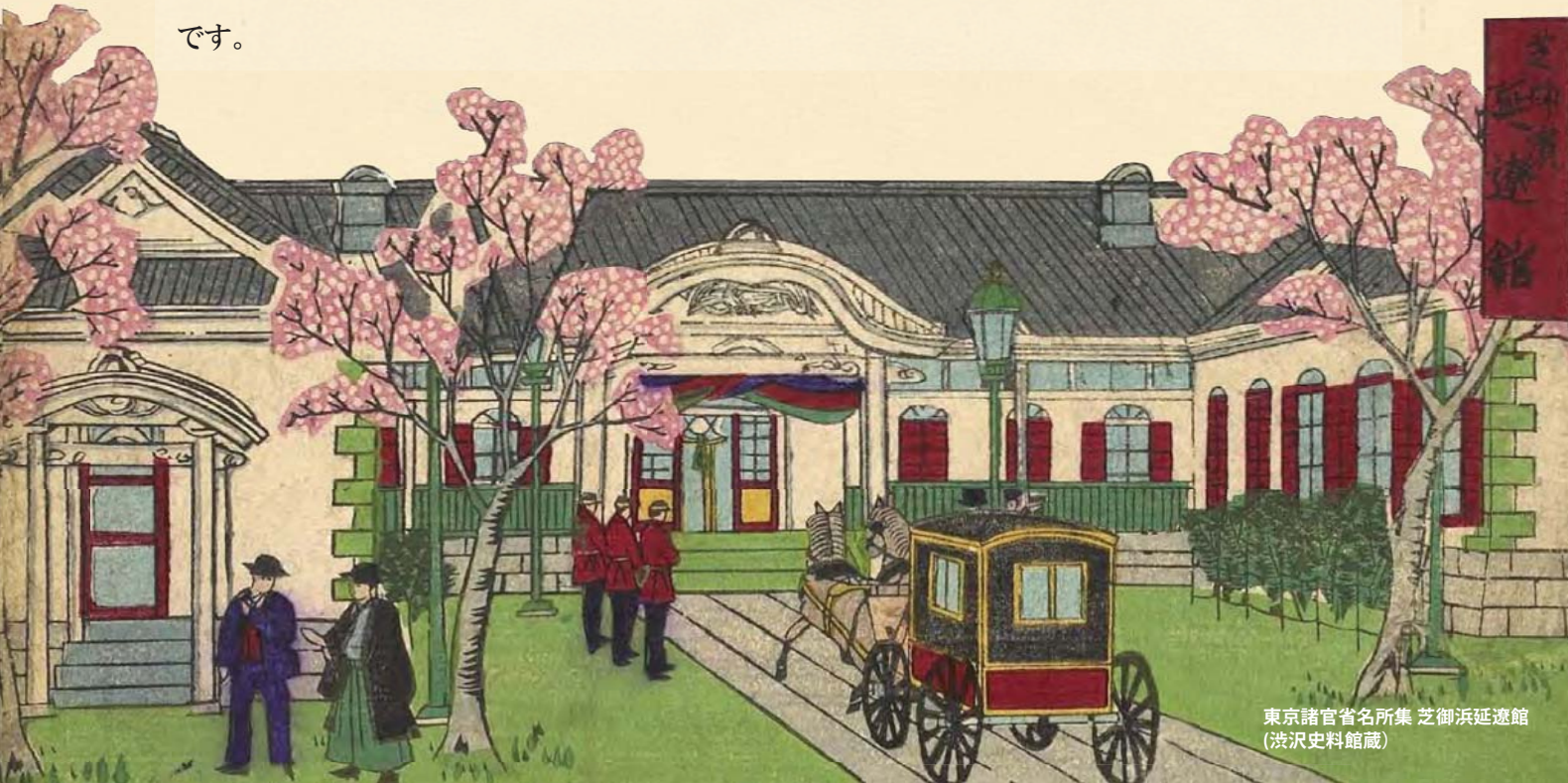
東京都は、2020 年オリンピック・パラリンピック大会の開催に向けて、海外からのお客様をおもてなしする施設として、近代最初の迎賓施設であった「延遼館（えんりょうかん）」を浜離宮恩賜庭園に復元いたします。

これまで延遼館についてはまとまった研究がなく、専門の歴史辞典にも項目が立てられていませんでした。東京都公文書館では都の復元計画発表を機に当館所蔵資料をはじめ関係機関の資料調査を開始し、これまで解明の進んでいなかった延遼館の歴史に光を当てる作業を進めて参りました。

今回のパネル展示はその中間報告に当たるものです。短期間の調査の中からも、明治 2 年（1869）の建設から 23 年（1890）の取り壊しに至る間に、外交上の接遇にかかる主要な舞台として、あるいは政府要人らが催す会議や祝宴、イベントの会場として、幅広く活用されてきた延遼館の姿が浮かび上がってきました。

また、迎賓施設としての延遼館の価値が、将軍家の庭であった浜御殿から浜離宮へと伝えられた庭園美と一体のものであったことも明らかになりました。

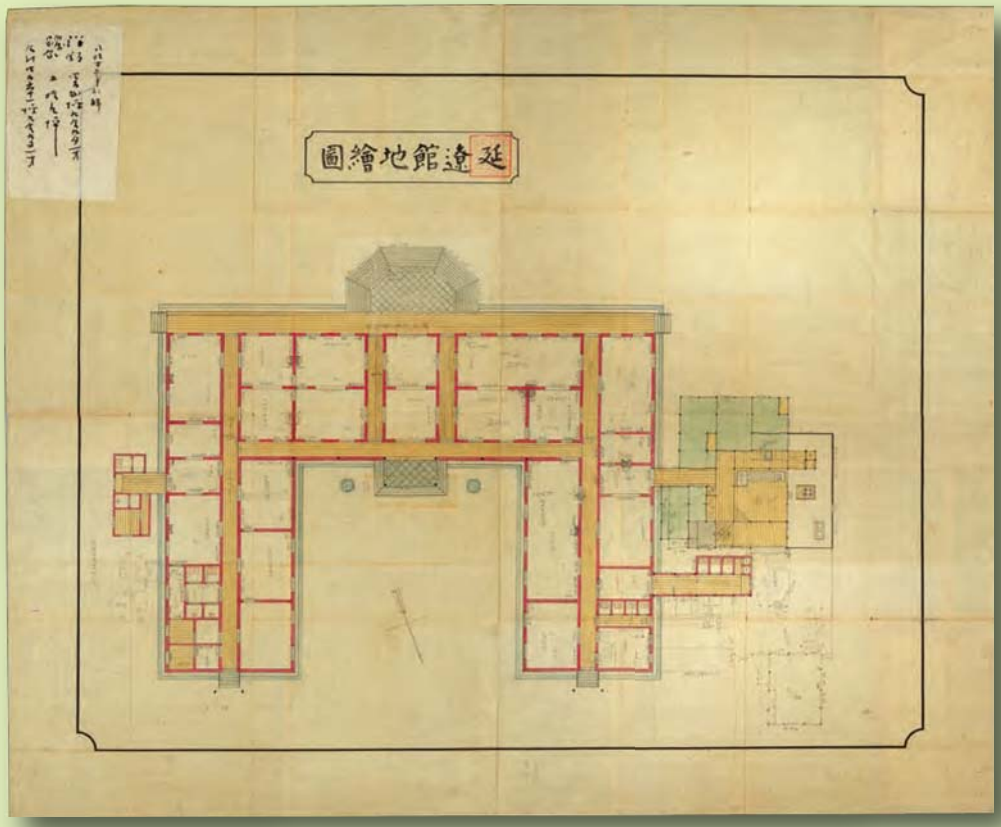
このパネル展を通して、延遼館の果たした歴史的役割に思いを馳せるとともに、国指定の特別史跡・浜離宮恩賜庭園の中にこの歴史的建造物が復元された姿を思い描いていただくことができれば幸いです。



東京諸官省名所集 芝御浜延遼館
（渋沢史料館蔵）

延遼館正面（東京国立博物館蔵）
延遼館を正面から撮影した写真。建物のかたちや玄関の装飾の形態、前面には石畳の道路と芝生の広場があったことなどが分かる。

東京延遼館御庭之図（江戸東京博物館蔵）
明治期日本画壇の巨頭・川端玉章によって描かれた浜離宮の御庭。延遼館裏手に広がるこの眺望こそが延遼館のおもてなしの最大のポイントだった。



浜離宮延遼館地絵図 六分計（宮内公文書館蔵）
彩色された延遼館の建築図面。コの字型の建物の内部は細かく部屋割りがされている。余白に見られる書き込みは改装・改築のためのものであろうか。玄関や背面入口の形態も詳細に見てとることができる。

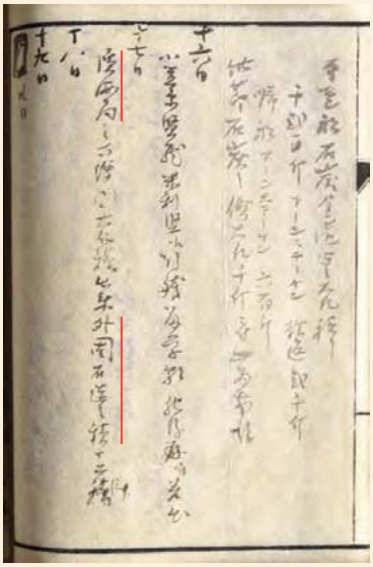
Ⅰ.浜御殿と幕末の海軍施設「石室」

将軍家の海の別荘として、美しい潮入りの回遊式庭園を整備・充実させてきた浜御殿。しかし、この平和でのどかな空間にも幕末の激動は押し寄せました。

慶応2年（1866）、幕府は浜御殿を幕府海軍の管轄とし、海軍の改革と充実をめざしていきます。機能的で規模も大きい海軍庁舎と教習施設の建設が目指され、翌慶応3年には設計・建設が本格化しました。実はその実務に携わったのは、小栗忠順・勝海舟・木村喜毅といった、幕臣の立場にありながら新たな時代を見据えていた開明的な俊英たちでした。彼らの進取の魂は従来の日本式建築様式から自由な木骨・石造の建造物を生み出し、それは当時「石室」と呼ばれました。幕府瓦解により本格的に活用されずに放置されてしまいますが、残されたレガシーは、明治国家最初の国賓接遇のために役立つこととなるのです。

勝海舟肖像（横浜開港資料館蔵）
慶応３年当時は軍艦奉行として幕府海軍の改革と充実に努めていた。

浜御殿地向御庭向共惣絵図
（東北大学附属図書館蔵）
浜御殿の整備が最も充実した11代将軍徳川家斉在位中のものと推測される絵図。



勝海舟日記　慶応３年２月17日の条（江戸東京博物館蔵）
「浜海局」につき「外周石造の積」と上申した旨を記録している。

ベアト撮影「大君の夏の別荘」
（横浜開港資料館蔵）
庭園美を誇る幕末の浜御殿。しかし幕末の緊迫した情勢はこの地にも及んできた。

Ⅱ.明治日本の外国貴賓「おもてなし」

明治2年（1869）4月、英国公使パークスは夏にイギリス国王の第2王子エジンバラ公が来日することを告げました。明治政府は国賓として迎えることを決定し、国の威信をかけたおもてなし作戦が始動していきます。一番の問題となった宿泊施設については、幕末の海軍施設「石室」に目が付けられ、これに改修を加えて内部の装飾と調度品を整えることとなりました。こうしてわずか2ヶ月でエジンバラ公の接遇施設は完成し、来日直前の7月9日にはこの施設を延遼館と名づけることを決定しました。

これ以降、延遼館は外務省が管轄し、国賓の宿泊・接遇施設としてはもちろん、各国公使やお雇い外国人教師らへの饗応、また重要な会見・会議の場として機能していくことになりました。

エジンバラ公アルフレート
（東京大学史料編纂所寄託）
エジンバラ公は1867年よりイギリス海軍のガラティア号で世界一周旅行を行い、日本に立ち寄った。

延遼館石室入口の図
（外務省外交史料館蔵）
エジンバラ公が滞在した延遼館の玄関。延遼館と命名される前の史料なので「石室玄関」と記されている。

延遼館備 色絵金彩花鳥文 沈香壺（霞会館蔵） 総高70cm
延遼館備だったこの壺は、華族会館に引き継がれ、その後身である霞会館で現在も保存されている。

英国王子渡来（中央区立京橋図書館蔵）
明治2年、東京の新たな出来事や新名所等を描いた「東京繁華一覧」の中の1枚。浜離宮大手門から延遼館に向かうエジンバラ公一行の姿も描かれた。

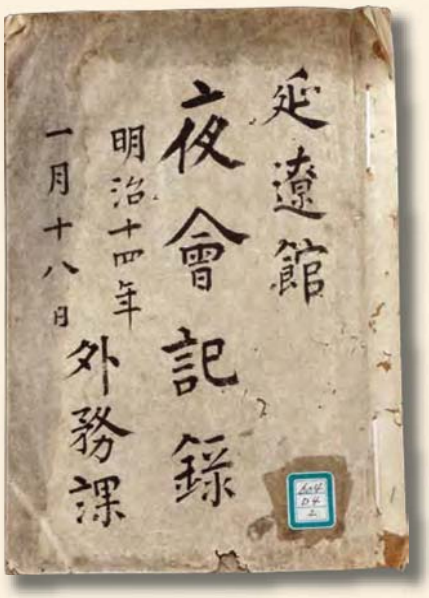
明治天皇とグラント将軍との「御対話」（聖徳記念絵画館蔵）
明治12年（1879）に来日した前アメリカ大統領グラント氏は南北戦争の英雄としても著名な人物。明治天皇は延遼館滞在中のグラント氏を訪ね浜離宮に臨御、中島の茶屋で会見された。その模様は明治天皇の事績を伝えるために描かれた80枚の絵画の1枚として、現在も聖徳記念絵画館に展示されている。

Ⅲ.西欧式「晩餐・夜会」で「おもてなし」

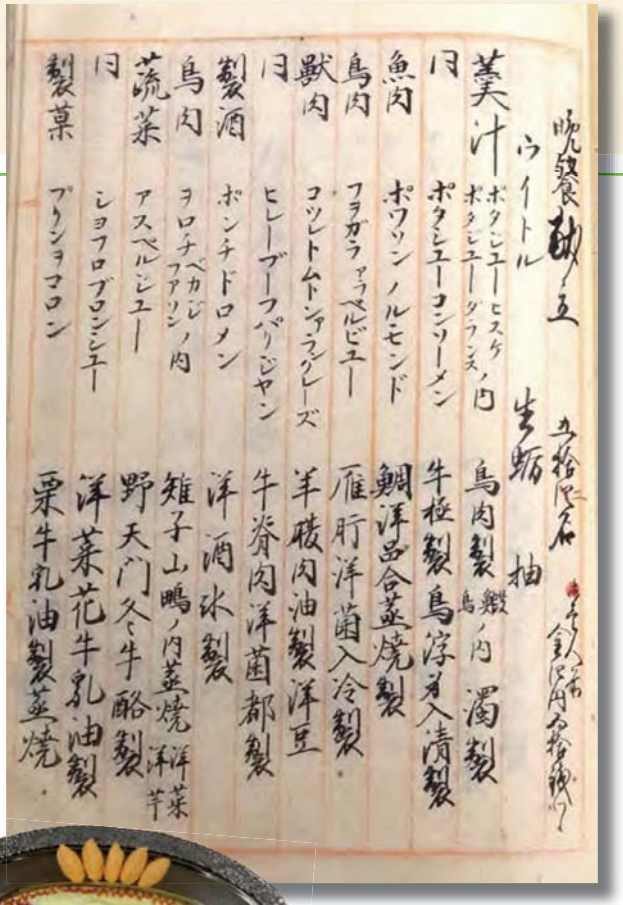
明治12年(1879)に井上馨が外務卿に就任すると、日本の制度・習俗を欧風化することで欧米諸国に日本の開化をアピールし、不平等条約の改正につなげようとする施策がとられました。その中で外国賓客をもてなす宴会のマニュアル作りも始まり、明治13年12月に「内外交際宴会礼式」がまとめられました。

明けて明治14年1月18日、このマニュアルに即した初めての晩餐会・夜会が延遼館を舞台に開催されました。松田道之東京府知事夫妻主催によるこの日の会は、ご婦人方のお化粧部屋にまでこだわり、豪華なフランス料理のコース、陸軍軍楽隊による吹奏楽、歌舞伎界のスターが競演しての演劇などで盛り上がりました。午前0時を過ぎて横浜へ帰る外国人客のため、鉄道局と交渉し午前1時発の臨時列車まで用意されていました。

明治初年以来の賓客おもてなしの蓄積が一つの極みに達したといえるでしょう。



延遼館夜会記録(東京都公文書館蔵)
延遼館で開催された夜会について記録した東京府の公文書。招待状の見本、晩餐会の席次、西洋料理の献立などが綴じ込まれており、当時の夜会の様子を現在に伝える。



晩餐会メニュー(中央区立郷土天文館蔵)
延遼館で催された晩餐会で供された食事を再現したレプリカ。

羊肉のカツレツ

栗のプリン

ザリガニ・鶏肉の濃厚スープ

鴨のロースト

鯛のノルマンディー風

晩餐献立(東京都公文書館蔵)
延遼館で催された晩餐会のメニュー。「夜会記録」の中に含まれる史料。

Ⅳ.延遼館 ― 外務省から宮内省へ

明治16年(1883)11月に外務省が建設を進めていた新たな「外国人接待所」が開館、鹿鳴館と名づけられたこの建物で舞踏会・夜会・バザーなどが頻繁に開催されるようになっていきます。翌年、延遼館は外務省から宮内省へ移管され、その迎賓館としての役割を終えたかのように考えられてきました。

しかし、この後も延遼館では伊藤博文や榎本武揚らにより晩餐会・園遊会などが開かれていました。鹿鳴館時代は明治16年から20年に至るわずか4年ほどでしたが、延遼館での饗宴は明治22年にまで及んでいます。

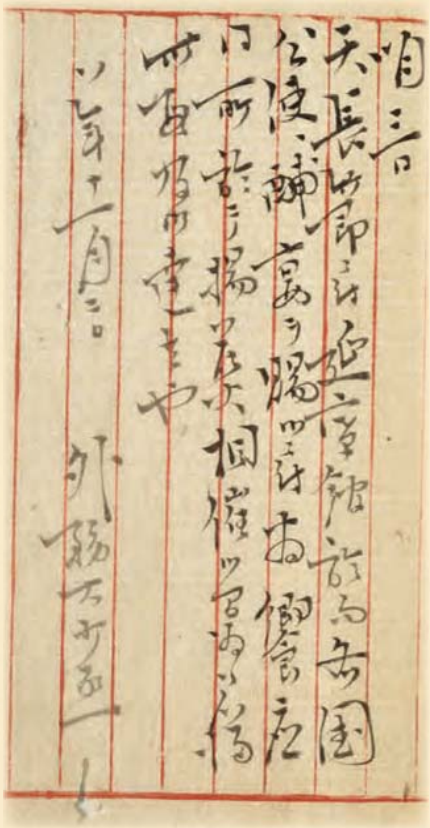
また明治17年3月には明治天皇によるはじめての天覧相撲が行われました。延遼館裏側玄関のポーチに玉座をしつらえ御庭に土俵を作って行われた取組は、午前10時30分から午後6時を過ぎるまで行われ、明治天皇は熱心に観戦されました。この初の天覧相撲は明治以降停滞傾向にあった相撲界にとって起死回生の転機となったと伝えられています。

延遼館招待状(学習院大学史料館蔵)
延遼館で開催された夜会や晩餐会の招待状。
榎本武揚(左)、伊藤博文(右)などが主催した。

御浜延遼館於テ天覧角觝之図(相撲博物館蔵)＊部分
天覧相撲を描いた錦絵には様々な種類があり、それだけ人気のある題材だったことが分かる。取組を眺める明治天皇の前には、様々な器や花瓶が描かれている。

御浜延遼館於テ天覧角觝之図(東京都公文書館蔵)
明治になって初めての天覧相撲が、明治17年に延遼館で開催された際の錦絵。
画面中央の玉座には明治天皇の姿が描かれている。

東京都公文書館所蔵「東京府・東京市行政文書（重要文化財）」
にみる延遼館関係史料



協力者・協力機関（50音順、敬称略）

江戸東京博物館
外務省外交史料館
学習院大学史料館
霞会館
木村喜昭
宮内公文書館
慶應大学三田メディアセンター
国立国会図書館
渋沢史料館
聖徳記念絵画館
中央区立郷土天文館
中央区立京橋図書館
東京国立博物館
東京大学工学部
東京大学史料編纂所
東京都公園協会
東北大学附属図書館
中野健明
日本相撲協会
横浜開港資料館
早稲田大学図書館

編集・発行：東京都公文書館
発行日：平成27年5月1日
〒158-0094
東京都世田谷区玉川1-20-1
TEL 03-3707-2604
http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/
東京都公文書館HP